



いずみ

No.58

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 28



《The Power of the Land》(大地の力)

Dam Dang Lai
(ダム ダン ライ)

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 28 作者の言葉

ベトナムで最も経済的急成長を遂げているリゾートエリア「フラミンゴ ダイライ リゾート」からの委嘱で昨年、3カ月かけて制作した。大地に蓄えられた力を吸い上げ、今まさに開花の時を迎えている、そんなエネルギッシュな作品。柱部分の構造はベトナムの伝統的な木造建築の柱を模し、時を経たベトナムの経験をカラフルな色の層で表現している。

(ダム ダン ライ)

タイトル：

《The Power of the Land》

制作年：2016年

素材：ポリエステル樹脂、
グラスファイバー、鉄ほか

サイズ：高さ2m～8.5m

設置場所：ベトナム・ハノイ郊外

連載 宮の森の四季 28

本郷新記念札幌彫刻美術館

恋しい雪

業務係 加藤 正浩

昨年の秋は真冬日が続いてあっという間に過ぎていきました。師走の時期になると、雪が積もるのを待ちわびてしまいます。

年明け1月20日（金）から22日（日）に開催する「さっぽろ雪像彫刻展2017」、昨年北海道新聞の朝刊に大きく掲載いただいたので、ご存知の方もいらっしゃるのではないかと思います。

「さっぽろ雪像彫刻展実行委員会」との共催で8回目の開催となる当イベント、市内の彫刻家や造形作家、美術系の学生グループが当館の前庭に雪の彫刻をつくって公開します。

雪像づくりに必要な雪は「当館の敷地内の雪」を使用。昨年は雪像制作に必要な量の雪が直前まで積もらず、開催が危ぶまれたことを思い出します。今年度は雪像約10基とすべり台を制作する予定です。雪まつりより一足早い「さっぽろ雪像彫刻展2017」、皆様のご来場をお待ちしています。



「都市美の敵は？」

北海道環境財団理事長 小林 三樹

コルビジェが文明批評ともいうべき「伽藍が白かった時」を著わした1930年代、パリの街は煤煙で汚れ、石材のもつ淡い色彩でかつて輝いていた建物群は煤けていた。産業革命で豊かさを手にした西欧都市では、工場や鉄道だけでなく一般家庭も石炭を焚けるようになり町中が黒く変わった。ロンドンが霧の街と呼ばれ、真っ赤な女性のマフラーや赤いロンドンバスがよく似合ったのは、周りの建物が真っ黒だったからではないかと思う。ロンドンの霧(smog)は、煙突から出る水蒸気(fog)と煙(smoke)の合成物だったわけで、石炭焚きが禁止された今では驚くほど晴れた日が多い。

真冬の週末、寒気団がロンドン上空に停滞して地表が冷えきり、各家庭が焚き続けた石炭煤煙が上空に上れずに停滞したため、週明けからの5日間に高齢者を中心に普段より4千人も多く死亡した事件が起きたのは1952年12月のことだった。仕方がないことと諦めて数十年放置してきた煤煙が、建物だけでなく人の生命をも蝕み始めたのだった。1960年代に入り中心部での石炭焚きを徐々に禁止し、石油やガス・電気さらに地域暖房に切り替えたので、やっと、洗えば元の姿を保つことができるようになった。

都市美を構成する建物の外壁を美しく装うのが文化だった時代の建築物には、起伏に富む多様な装飾が施されていた。外壁に

こびり付いた煤(湿性沈着物)を酸で溶かそうとした時代もあったが、石の中に残留する酸による石材の痛みが避けられず取りやめられた。次に表面を削り取る方法が試されたが、細部の形状が変わることに加え、粉塵による労働災害と近隣公害のため断念された。

その後はもっぱら「高圧水噴射」に切り替わった。それでも水の浸透を最小限にとどめる必要、高所作業の大変さなどで、多額の工事費を要する。私が英国に滞在した1984/85年ころ、英国国会議事堂も大聖堂も集合住宅も一部分ずつ洗浄の最中であった。家主が支払おうとしないなど金繰りが付かない建物は黒いままなので、街は黒白の斑模様であった。再訪して綺麗な姿に戻った建物に出逢えた時にはホッとしたものだ。今でもケルン大聖堂とかミュンヘン市庁舎など細かな装飾で彩られていた建物の修復は継続中なので、何十年かあとには本来の美しい姿に戻ることを期待している。

大理石像を溶かし、ブロンズ像を汚す酸性雨について、日本では原油精製段階での脱硫と石炭火力発電所での脱硝により大幅に改善されたが、ガソリン車等による硝酸汚染はまだ続く。野外彫刻を穢す敵が、無邪気な鳥たちだけになる社会を待ち望みたい。

レポート

友の会秋のバスツアー「後志のアートと味覚を楽しむツアー」

小川原脩記念美術館&小樽芸術の村など鑑賞

後志管内に点在する芸術のポイントを探索する友の会恒例の秋のバスツアーが昨年10月22日、行われた。小樽芸術の村、キロロリゾートホテル、小川原脩記念美術館、彫刻芸術家のアトリエ訪問など、晩秋のたたずまいの中、要所で芸術の魅力を楽しんだ。45人の参加者の中から中田要子さん、三塚米子さんの二人に鑑賞旅行の印象を綴ってもらった。

小川原画伯のアジア的境地に感動

中田 要子（会員）

初めて訪れた小川原脩記念美術館。恥ずかしながら美術館を訪ねるまで小川原脩画伯の名前さえ知らなかったが、彼の初期から晩年の作品まで作風の変遷が分かりやすく展示されていた。戦後、中央画壇との接触を絶って制作を続けた作品は最大の見所だった。



画伯の中国、チベットの旅で、趣きが深く、高尚なアジア的境地を切り開いていこうとする姿勢を反映した作品はとても見ごたえがあり、印象に残った。また、郷土・倶知安の絵画からは昔の農村風景が懐かしく心が癒された。

美術館はニセコ連邦と違和感がなくたたくみ、天候の良い日なら羊蹄山が真正面に見える素晴らしい風景にちがいない。椅子に腰かけて山々を眺めているときっと時間を忘れてしまうと思う。

圧巻のステンドグラス

三塚 米子（一般参加）

会員以外でも参加できるとあって心を動かされ友人3人と参加した。バスの中で友の会の活動報告や後志地方の野外彫刻の分布

地図が配布され、数多くの彫刻作品があることを知り、今までの旅で見落とししていたことを残念に思った。

第1の目的地、小樽の「ニトリ芸術村」で

は音声ガイドが渡されて入館した。中に入ると建物の壁一面のステンドグラスに思わず、「わー、



すごい!」。いずれも19世紀末から20世紀初めにイギリスで制作されたもので、ビクトリア女王当時から第1次世界大戦前後まで教会の窓を飾っていた約140点のステンドグラス。中でも、圧巻は第1次世界大戦の戦勝記念と犠牲者追悼のために制作された「神とイギリスの栄光」。当時、同盟国だったフランスの聖女、ジャンヌ・ダルクの姿も見られ、歴史を学ぶ貴重な作品であることも知った。

数多くの作品の美しさに感動し、厳粛な気持ちになり、ついで「アールヌーボーガラス館」でエミール・ガレ、ドーム兄弟などのアールヌーボーを代表する作家のガラス器具や照明器具の作品に魅了されているうちに「時間です!」。ちょっと時間不足ではあった。

彫刻清掃活動事前講演会

もっと彫刻の魅力を知りたい！

札幌・中島中学校 1 年生の感想文から

札幌市立中島中学校 1 年生が昨年 10 月、総合学習の一環で中島公園の彫刻清掃活動をしたが、清掃に先立って 9 月、北大名誉教授の常田益代友の会会員の講演、「生活の中の彫刻」を聴いた。講演に対する生徒の感想文を紹介する。

彫刻を意識して見る

彫刻は身近なところにたくさんあるのだなとわかりました。今までは彫刻など意識していませんでしたが、これからは意識して彫刻を探してみようと思いました。彫刻の作り方がいくつもあること、素材もたくさんあることが知れてよかった。(Y. I)

彫刻は 3 D 芸術

彫刻は引き算で、浮き彫りで作ったり、足し算で土を足して作ったり、いろいろなやり方があるということが分かった。彫刻は絵が 2 D なのに対して 3 D なので動きを付けることが出来る。イサム・ノグチの作品、すごいと思いました。(Y. K)

現代彫刻と伝統的彫刻を知る

彫刻などに全く興味がなかったのですが、講演を聴いて興味を持ちました。彫刻には現代彫刻、伝統的彫刻など二つに分かれていることも初めて知りました。勉強になりました。今まではじっくり彫刻を見ず通り過ぎていました。(R. S)

病気の彫刻を大切に

中島公園の彫刻はいつも見ていたけれど、だれが作ったか、どんな素材なのかは深く考えていなかった。彫刻も病気になるんだと思いました。人間と同じように扱ってあげることが大切だと思いました。(A. H)

作者の思いを考えて

講演を聴いて改めて彫刻の素晴らしさを知りました。彫刻はただ素晴らしいだけでなく、平面的な彫刻や立体的な彫刻などのさまざまな工夫があり、その工夫から作った人の思いを考えながら作品を見る面白さを知りました。(N. N)

彫刻の面白さをもっと

お話を聞いて彫刻は楽しい物なのだと思います。彫刻はむずかしい題名だったり、見てもあまりわからなかったりしていたけど、いろいろな種類があってテーマもたくさんあって面白ものなのだと考えが変わりました。(K. I)

魅力的な彫刻

作る人によってさまざまな目的や思いが込められていることを知りました。王の権力を示す彫刻や都市の象徴である彫刻、歴史のさまざまなことが記録されている彫刻など、世界にはいろいろな彫刻があり、そのどれもが魅力的でした。(R. K)

彫刻の足し算、引き算

彫刻の彫り方や足し算、引き算をして作る方法などたくさん学ぶことが出来ました。彫刻はとても身近にあることも分かったし、見て楽しむものであることも初めて知りました。興味がとてもわいてきてもっと彫刻について知りたい！(K. S)

友の会顧問

國松さん札幌市芸術賞受賞

友の会顧問で彫刻家の國松



明日香さんが札幌市の2016年度芸術賞を受賞した。

芸術賞は札幌市の美術、音楽、文学などの進展に大きな功績を挙げた個人、団体に贈るもので國松さんは鉄を素材に自然を表現する彫刻が国内外から評価されたことが認められた。

馬場さんは2015年、ドイツ・イエナで開かれた「イエナ・フルドーム・フェスティバル」で特別賞を受賞して注目を浴び



た映像作家。

ホワイトイルミネーションでは8丁目広場に特設されたプラネタリウムのような大型の全天周ドームシアターに美しく幻想的な映像を次々に映し出し、観客を魅惑の世界に引きずり込んだ。

友の会創立会員

仲野三郎さん逝去

友の会の創立会員で長いこと会の発展に尽力した仲野三郎さんが昨年11月10日、亡くなった。85歳。仲野さんは長いこと会の副会長などを務めながら、全道をマイカーで隈なく

巡り、道内2千数百点の彫刻の写真やデータを収集したほか、会報「いずみ」でも本郷新の作品を表紙で紹介するなど会の活動のけん引役を果たした。近年は闘病生活を送っていた。

急募！！

会報「いずみ」編集スタッフ

友の会創設以来、年4回発行を続けてきた会報「いずみ」も今号で58号。新たな視点でのリニューアルを目指すため、お手伝いいただけるスタッフを求めています。

編集企画から紙面の編集、レイアウトなどワードの操作をできる方ならどなたでも歓迎。

下記へご連絡ください。

現編集担当：大内和

☎011-884-6025

または

橋本会長 ☎011-552-8956

奥井副会長 ☎011-521-3540

<スタッフメール>

izumi-staff@sapporo-chokoku.jp

ホワイトイルミネーション

幻想的な映像作品投射

映像作家・馬場ふさこさん

会員で映像作家の馬場ふさこさんが昨年11月18日から12月25日まで札幌・大通公園で催された「ホワイトイルミネーション」の「クリエイティブシアタードーム」で作品を披露した。

2017年札幌彫刻美術館友の会新年会

◇とき

1月22日(日) 11時から

◇ところ

札幌・宮の森ミュージアムガーデン

(中央区宮の森2条11丁目2-1 ☎011-612-3500)

会費：4,000円(当日会場で承ります。年会費も申し受けます)

＜木下成太郎先生像＞テーマに
橋本会長らが発表

武蔵野美大研究会

彫刻作家、研究者の全国組織「屋外彫刻調査保存研究会」の2016年度後期研究会が昨年11月17日、東京・武蔵野美大で行われ、札幌から参加した友の会の橋本信夫会長と亀谷隆会員（同大北海道校友会支部長）が＜木下成太郎先生像＞についての発表をした。

研究会のテーマは「札幌・中島公園の＜木下成太郎先生像＞について」で、亀谷会員は「木下成太郎の生涯と銅像」、橋本会長は「市民による保存活動の経緯」と題して友の会の彫刻清掃活動の実態などを発表した。

「黒田・ケプロン像」で終止符

今期の彫刻清掃完了

今年度最後となる彫刻清掃



が昨年10月16日、札幌・大通公園10丁目にある「黒田清隆之像」

と「ホーレス・ケプロン之像」で行われ、今シーズンの彫刻清掃活動を締めくくった。

この日は温暖な秋の日に恵まれ、格好の清掃日和。高压洗浄機を使って黒田翁とケプロン博士の像の水洗いを行った。準備段階では問題なかった洗浄機が本番で作動しなかったり、燃料切れになったりのハプニングはあったものの、秋空に弧を描いて噴射する水で2体の像の汚れを洗い流した。

美術館事業へ支援

連続講座の会場整理などで
寺嶋館長から謝辞

本郷新記念札幌彫刻美術館が開館35周年記念事業として昨年6月から11月まで3回にわたって催した連続講座2016「彫刻の美をたずねて」で友の会が会場整理や受付などの美術館支援を行い、美術館から感謝された。

同講座は6月の「日本の近代彫刻—文明開化150年の潮流」、9月「西洋彫刻の表現と技法—ロダンまで、ロダン以後」、11月「現代彫刻の展開—拡張する空間と素材」の3回に分け、中央区の道新プラザD0-BOXで開かれ、毎回、友の会のメンバーが支援活動をした。

人手の少ない同館からの要

請もあったが、来場者の受付、誘導、会場づくり、記録などで協力して感謝された。

講座終了後、寺嶋弘道館長から「連続講座は、彫刻鑑賞の講座内容、連続受講の仕組みとともに街ナカの会場を使つての事業展開を試みたので、心配事の多い教育事業だったが友の会のおかげで最終回まで滞りなく終えることができた」との謝辞がメールで寄せられた。

道新紙面に掲載

友の会「清掃ボランティア」

友の会が9月に行った札幌・大通公園の彫刻清掃活動の様子が9月13日の北海道新聞紙上で紹介された。



紹介されたのは西7丁目の＜漁民之像＞（田畑一作制作）と12丁目の＜若い女の像＞（佐藤忠良制作）の2体の清掃作業ぶり。一般参加の市民合わせて13人での作業の様子を3枚の写真で紹介、橋本会長の「百年、千年と残っていく大切な作品を市民の手で守り、将来につないでいきたい」とのコメントも載せていた。

事務局日誌

▼9月1日＝彫刻学習会（中島公園）木下成太郎像の内視鏡検査など▼4日＝＜漁民之像＞＜若い女＞清掃▼6日＝中島中学で出前講義（常田益代会員）▼9日＝定例役員会（エルプラザ）▼13日＝＜漁民之像＞清掃など道新に掲載▼20日＝クラーク像清掃（羊ヶ丘展望台）▼10月13日＝定例役員会（エルプラザ）▼16日＝＜黒田・ケブロン＞像清掃▼22日＝後志バスツアー（小川原脩記念美術館など）▼24日＝彫刻学習会（創成川公園彫刻鑑賞と解説）▼27日＝中島中学清掃学習（中島公園）▼11月10日＝定例役員会（エルプラザ）▼12月8日＝定例役員会

編集後記

▼「美に囲まれ、美にこころを通わせ、美への感性を培い、一方で美を仲立ちにして地域社会に貢献し、自らのクオリティを高めてゆく」▼奥岡茂雄前札幌芸術の森美術館長の著書「北の美のこころ」の文章の一節。こんな気構えで一年を送られれば。2017年、今年もよろしく。（大内）

札幌彫刻美術館友の会
会報「いずみ」 No.58
2017年1月1日発行
発行人 橋本 信夫
編集者 大内 和
（札幌市清田区清田5-4-6-30
011-884-6025
印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」58号 目次

自作自選28 《The Power of the Land》ダム ダン ライ 表紙	
作者の言葉	2
宮の森の四季28「恋しい雪」田中正浩	2
風見鶏「都市美の敵は？」小林三樹	3
レポート「友の会秋のバスツアー感想」	4
レポート「中島中学校彫刻清掃事前講演感想文」	5
友の会ニュース	6-7
武蔵野美大研究会で会長ら発表/黒田・ケブロン像清掃/美術館事業へ支援/清掃ボランティアで道新掲載/國松さんに市芸術賞/馬場さん映像作品披露/仲野三郎さん逝去/会報編集スタッフ募集/新年会事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■コレクション展 あなたが選ぶ本郷新この1点

開催中～2017年4月9日日

■さっぽろ雪像彫刻展2017

1月20日金 ～22日日

さっぽろ雪像彫刻実行委員会との共催で美術館庭園を会場に市内の造形作家、学生らが雪の彫刻作品を制作、公開する。

記念館

■常設展示（通年）

開館35周年記念「本郷新と札幌彫刻美術館」

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>